

- 1, 題材 倍の考えを使って考えよう 【活用】
- 2, 目標
 - ・倍の考えを活用して、多段階の思考を要する問題を筋道立てて解決することができる。
 - ・他者のつくった式から考えを解釈し、それをことばや図を使って説明するとともに、新たな問題の解決に適用することができる。
- 3, 指導計画 1時間扱いの1時
- 4, 本時の展開
 - (1) 本時のねらい 倍の考え方をを使った問題解決の考え方を、問題文や図から何を求める式なのかを明らかにすることからとらえ、倍の考え方を活用し筋道を立てて解決できるとともに、他者のつくった式を解釈することができる。

(2) 展開

学習活動	時	指導上の留意点	評価規準
1, 前時の学習を振り返る。	5	○フラッシュカードで、基礎・基本の計算問題を練習させる。	
2, 本時の学習のめあてを確認する。	5	○めあて 考え方を説明することができるようになろう を明示し、本時の学習のめあてを確認し本時の問題を提示する。 <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 5px; margin: 5px 0;">赤色の色紙があります。4まいの代金は36円です。24まい分の代金は何円ですか。2人の考えにあう図をえらび、そのわけも説明しましょう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・問われているのは、問題の解決に当たって提示された2つの考え方を式と図からどのように解釈するかということである。子どものつぶやきを待ち、問題のイメージを膨らませつかめたところで中心活動に入っていく。 	
3, 何を求めるための式なのか図や問題文から考える。	15	○本時のめあてを達成するための解決への視点は、2人の考えた式の意味や意図に着目することにあるので、 何を求めるための式か分かれば、考え方を説明できるのではないか と問い算数的活動に入っていく。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをノートに図や絵、式で表現するなど個人思考の場を設定する。 	
4, 何を求めるための式か明らかにし2人の考え方を話し合う。	10	○子どもの考えを板書させ、それぞれの考えの過程や理由を明らかにさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを説明するだけでなく、他者の考えを数学的に解釈することを目指している。式のよみを話題にすることで明確にしていきたい。 	○倍の考えを活用して問題を筋道立てて解決することができる。
5, 似た問題を考える。	5	○本時のめあてを思い起こし、めあてが達成されたかを確認しまとめる。 考え方を説明するときは、 まとめ 何を求めるための式か考える。	
6, 本時のめあての評価し学習の振り返りをする。	5	○はじめの問題の条件を変えて数値の異なる場面を設定することで、「もし〜だったら」と考えさせ本時の振り返りと「活用」を意識した授業を目指す。	
		○練習問題を提示し本学習の習得を図る。本時は1問目に上記の問題条件を変えた解決方法の適用問題をAとA'とし、2問目はB問題へのステップ問題（B問題に近づくためのステップ問題）を提示することで探究の種をまく。	
		○次時は「活用問題をたくさん解いていこう」と投げかけ予告とする。	

- 1, 題材 □を使った式で表そう (□を使った式)
- 2, 目標
 - ・乗法の場面で, □を使って立式し, いろいろな数を当てはめて答えを求めることができる。
 - ・□に当てはまる数を計算で求めることができる。
- 3, 指導計画 4時間抜きの3時
- 4, 本時の展開
 - (1) 本時のねらい 問題文に合った□を使った式の表し方を, それぞれの図の□が表すものは何かを明らかにすることからとらえ, 乗法の場面における数量関係を的確にとらえ□に当てはまる数を求めることができる。

(2) 展開

学習活動	時	指導上の留意点	評価規準
1, 前時の学習を振り返る。	5	○フラッシュカードで, 基礎・基本の計算問題を練習させる。 ○1問テストで, 前時の学習内容が身に付いているかをチェックする。	
2, 本時の学習のめあてを確認する。	5	○めあて □を使った式でもっと表すことができるようになる を明示し, 本時の学習のめあてを確認し本時の問題を提示する。 あめを同じ数ずつ6人に配ると, 全部で54こいりました。1人に何こずつ配りましたか。図を選び, □を使った式に表しましょう。そう考えたわけも説明しましょう。	
3, 図や問題文などから, □は何を表しているのかを考える。	15	○本時のめあてを達成するための解決への視点は, 図や問題文における□の意味に着目することにあるので, □が何を表すのか分かれば, わけをせつ明できるのではないか と問い算数的活動に入っていく。 ・自分の考えをノートに図や絵, 式で表現するなど個人思考の場を設定する。	○□に当てはまる数を調べることができる。
4, □を使った式はどのようなになるのか話し合う。	10	○子どもの考えを板書させ, それぞれの考えの過程や理由を明らかにさせる。 ・2つの図の違いを明らかにすることで, 問題文に合うことばの式や□の意味を明らかにし, 数量関係を的確に考えさせていく。 ○本時のめあてを思い起こし, めあてが達成されたかを確認しまとめる。 □を使った式でかけ算の問題も表せる。 まとめ 答えはわり算で求められる。	○数量の関係を□を使った式に表し, その関係を的確に考えている。
5, 似た問題づくりをする。	5	○はじめの問題の条件を変えて, 「もし~だったら」と考えさせることで問題づくりの場を設定し, 本時の振り返りと「活用」を意識した授業を目指す。	
6, 本時のめあての評価し学習の振り返りをする。	5	○練習問題を提示し本学習の習得を図る。本時は1問目に上記の問題条件を変えた問題づくりをAとA' 問題とし, 2問目はB問題へのステップ問題 (Bに近づくためのステップ問題) を提示することで探究の種をまいておく。 ○次時は「学んだことを確かなものにしていこう」と投げかけ予告とする。	

- 1, 題材 筆算のしかたを考えよう (たし算とひき算)
- 2, 目標 ・ (千いくつ) - (3位数) のひき算の筆算の仕方がわかる。
- 3, 指導計画 12時間扱いの11時
- 4, 本時の展開
 - (1) 本時のねらい (千いくつ) - (3位数) の計算の考え方を、数のしくみや計算のきまりを用いることよりとらえ、ひき算の仕方を理解し計算することができる。

(2) 展開

学習活動	時	指導上の留意点	評価規準
1, 前時の学習を振り返る。	5	<ul style="list-style-type: none"> ○フラッシュカードで、基礎・基本の計算問題を練習させる。 ○1問テストで、前時の学習内容が身に付いているかをチェックする。 	
2, 本時の学習のめあてを確認する。	5	<ul style="list-style-type: none"> ○めあて 0のあるもっとむずかしいひき算の筆算ができるようになるう <p>を明示し、本時の学習のめあてを確認し本時の問題を提示する。</p> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>1007-629の計算で、次のAとBのどちらの考え方を友だちにすすめますか。あなたがすすめるわけを説明しましょう。</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 10px 0;"> <div style="text-align: center;"> <p>A 1007</p> <hr style="width: 50px; margin: 0 auto;"/> <p>— 629</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>B 1007-629= (999-629) +8</p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・問われているのは、友だちにすすめるのはどちらでそれを選んだわけ、AとBの考え方の違いは何かの2点である。子どものつぶやきを待ち、問題のイメージを膨らませ十分につかめたところで中心の活動に入っていく。 	
3, AとBの考え方はどちらが友達にすすめられるかわけを考える。	15	<ul style="list-style-type: none"> ○本時のめあてを達成するための解決への視点は、Bの計算はどのような考え方なのかが分かることにあるので、 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>Bの考え方がわかれば、どちらをすすめるか決められるのではないか</p> </div> <p>と問い算数的活動に入っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをノートに図や絵、式で表現するなど個人思考の場を設定する。 <ul style="list-style-type: none"> ○習得させたい本時のねらいは、Bの繰り下がりのない計算との比較から、Aの筆算の計算の仕方をより明らかにすることである。 ・机間指導によりノートの書き込みの様子を把握し、自分なりの考えが表現されている段階で集団思考に切り替える。 	
4, AとBの考え方を明らかにし筆算の計算について話し合う。	10	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもの考えを板書させ、それぞれの考えの過程や理由を明らかにさせる。 ・桁数が多い計算であっても、既習事項を活用すれば解決につながることを確認する。また、Bとの比較によりさらなる深化を促していく。 ○本時のめあてを思い起こし、めあてが達成されたかを確認しまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>0のあるひき算の筆算も これまでの計算のしかたを使えばできる。</p> </div> <p>まとめ</p>	<p>○既習事項をもとにして、(千いくつ) - (3位数) のひき算の筆算の仕方を考えている。</p>
5, 本時のめあての評価し学習の振り返りをする。	10	<ul style="list-style-type: none"> ○練習問題 (3問) を提示し本学習の習得を図る。～1問目: A問題(基礎・基本の問題) ～2問目: 少し難易度を上げたA問題 ～3問目はA'の問題 (B問題へのステップ問題。B問題に近づくためのステップ) を設定し「活用」を意識した問題を提示し、探究の種をまいておく。 ○次時は「学んだことを確かなものにしていこう」と投げかけ予告とする。 	

- 1, 題材 がい数で計算しよう
- 2, 目標 ・和や差を概数で見積もる仕方を理解することができる。
- 3, 指導計画 3時間扱いの3時
- 4, 本時の展開

(1) 本時のねらい 買い物場面での代金の合計の見積もりの工夫を、3人を見積もりの仕方やそれぞれの目的の違いからとらえ、身近な生活場面における目的に応じた計算の見積もりの良さや合理性を理解することができる。

(2) 展開

学習活動	時	指導上の留意点	評価規準
1, 前時の学習を振り返る。	5	○フラッシュカードで、基礎・基本の計算問題を練習させる。	
2, 本時の学習のめあてを確認する。	5	○めあて がい算を使うことができるようになる を明示し、本時の学習のめあてを確認し本時の問題を提示する。 <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 5px 0;">ともやさんたちは買い物に行きました。3人は代金の合計の見積もりを考えています。次の(ア)(イ)(ウ)はだれの見積もりと言えますか。ことばや数を使って説明しましょう。</div> ・問われているのは、3人がどのような目的をもって買い物をしてその代金の合計を見積もっているかという点である。子どものつぶやきを待ち問題のイメージを膨らませ十分につかめたところで中心の活動に入っていく。	
3, 3人の買い物の目的と見積もりの違いはどこにあるのか考える。	15	○本時のめあてを達成するための解決への視点は、3人の買い物の目的を明らかにして見積もりの必要性を見抜くことにあるので、 目的のちがいを明らかにすれば、見積もりのしかたを説明できるのではないかと と問い算数的活動に入っていく。 ・自分の考えをノートに図や絵、式で表現するなど個人思考の場を設定する。	
4, 3人の計算の工夫から目的に応じた見積もりのあり方を話し合う。	10	○子どもの考えを板書させ、それぞれの考えの過程や理由を明らかにさせる。 ・3人の目的と照らし合わせながら、四捨五入以外にも切り上げや切り捨てなど問題場面に応じた適切な方法があることを話題にする。 ○本時のめあてを思い起こし、めあてが達成されたかを確認しまとめる。 がい算は、目的に合わせた見積もりをする。 まとめ (四捨五入・切り上げ・切り捨て)	○身近な生活場面で、目的に応じた計算の見積もりをしようとしている。 ○和や差の見積もりの仕方を理解している。
5, 似た問題を作成する。	5	○はじめの問題の条件を変えて、「もし~だったら」と考えさせることで問題づくりの場を設定し、本時の授業の振り返りと発展の活用場面を設定する。	
6, 本時のめあての評価し学習の振り返りをする。	5	○練習問題を提示し本学習の習得を図る。本時は1問目に上記の問題条件を変えた問題づくりをA(本時の基礎・基本問題)とA'問題(活用への問題)とし、2問目はB問題へのステップ問題(B問題に近づくためのステップ問題)を提示することで探究の種をまいておく。 ○次時は「新しい単元の学習に入ろう」と投げかけ予告とする。	

- 1、題材 図を使って考えよう
- 2、目標 ・数量の関係を線分図やテープ図、式に表し、問題を解決することができる。
- 3、指導計画 1時間扱いの1時
- 4、本時の展開

(1) 本時のねらい 買い物場面での代金の合計の見積りの工夫を、3人を見積りの仕方やそれぞれの目的の違いからとらえ、身近な生活場面における目的に応じた計算の見積りの良さや合理性を理解することができる。

(2) 展開

学習活動	時	指導上の留意点	評価規準
1, 前時の学習を振り返る。	5	○フラッシュカードで、基礎・基本の計算問題を練習させる。	
2, 本時の学習のめあてを確認する。	5	○めあて 図を使って考えることができるようになる を明示し、本時の学習のめあてを確認し本時の問題を提示する。 <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 5px 0;">よしきさんとともみさんは、図を使って問題をときました。2人は①②のどちらの問題をといたでしょう。わけを図や式やことばで説明しましょう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・問われているのは、問題場面を表したテープ図がどちらの問題文の数量関係に合うものであるのかという点である。 ・子どものつぶやきを待ち、問題のイメージを膨らませ十分につかめたところで中心の活動に入っていく。 	
3, 問題の場面表した図はどちらなのかを考える。	15	○本時のめあてを達成するための解決への視点は、全体の数量と1袋分の数量の違いを見抜くことにあるので、 1と□に着目して考えれば、図と問題文をつなげることができるのではないかと問い算数的活動に入っていく。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをノートに図や絵、式で表現するなど個人思考の場を設定する。 ○習得させたい本時のねらいは、観点を決めて図を見ることを意識させることでその手順を理解させ、問題場面における数量関係を図の見方や式の表し方から考えて明らかにすることにある。 <ul style="list-style-type: none"> ・机間指導によりノートの書き込みの様子を把握し、自分なりの考えが表現されている段階で集団思考に切り替える。 	
4, 問題文とそれを表した図から問題の数量関係を話し合う。	10	○子どもの考えを板書させ、それぞれの考えの過程や理由を明らかにさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・問題文をもとにした場合と図をもとにして考えた場合とでは、導き出した式に違いが出てくることが予想されるが、どちらにおいてもその考え方を話題にし、理解を深めていきたい。 ○本時のめあてを思い起こし、めあてが達成されたかを確認しまとめる。 図を使って考えるときは、 まとめ 1と□は何かを考えてとく。	○数量関係を図や式に表す手順を理解している。
5, 本時のめあての評価し学習の振り返りをする。	10	○練習問題（3問）を提示し本学習の習得を図る。～1問目：A問題(基礎・基本の問題) ～2問目：少し難易度を上げたA問題 ～3問目はA'の問題(B問題へのステップ問題。B問題に近づくためのステップ)を設定し「活用」を意識した問題を提示し、探究の種をまいておく。 ○次時は「新しい単元の学習に入ろう」と投げかけ予告とする。	

- 1, 題材 変わり方をグラフにしよう (折れ線グラフ)
- 2, 目標 ・変化のようすを折れ線グラフからよみとることができる。
- 3, 指導計画 10時間抜きの8時
- 4, 本時の展開

(1) 本時のねらい いろいろな折れ線グラフの変わり方のようすを、縦軸の1目盛りの違いやグラフの特徴に着目することからとらえ、変化のようすや伴って変わる2つの数量関係を正しくよみとることができる。

(2) 展開

学習活動	時	指導上の留意点	評価規準
1, 前時の学習を振り返る。	5	○フラッシュカードで、基礎・基本の計算問題を練習させる。 ○1問テストで、前時の学習内容が身に付いているかをチェックする。	
2, 本時の学習のめあてを確認する。	5	○めあて いろいろなグラフから変わり方をみることができるようになろう を明示し、本時の学習のめあてを確認し本時の問題を提示する。 問題①②を見て、はるなさんは「答えは両方(ウ)だね」と言いました。はるなさん言っていることは正しいですか。正しくないですか。わけも説明しましょう。 ・問われているのは、変化のようすを正しく表す折れ線グラフは、どのよう にあればいいのかという点である。 ・問題文や折れ線グラフから子どものつぶやきを待ち、問題のイメージを膨 らませ十分につかめたところで中心の活動に入っていく。	
3, いろいろな折れ線グラフの違いはどこにあるのか考える。	15	○本時のめあてを達成するための解決への視点は、それぞれの折れ線グラフの 違いはどこにあるか見抜くことにあるので、 ちがいを明らかにすれば、正しく表したグラフが分かるのではないか と問い算数的活動に入っていく。 ・自分の考えをノートに図や絵、式で表現するなど個人思考の場を設定する。	
4, 折れ線グラフから変化のようすをよみとれるのはどれか話し合う。	10	○習得させたい本時のねらいは、グラフから変化のようすをよみとる1目盛り の大きさによるグラフの印象の違いや伴って変わる2つの数量の関係を表 すグラフの特徴を、明らかにすることである。 ・机間指導によりノートの書き込みの様子を把握し、自分なりの考えが表現 されている段階で集団思考に切り替える。 ○子どもの考えを板書させ、それぞれの考えの過程や理由を明らかにさせる。 ・問題①と②の折れ線グラフの違いから、②の折れ線グラフの特徴を明らか にすることで、関数的な関係にある2つの数量の変化もみていきたい。 ○本時のめあてを思い起こし、めあてが達成されたかを確認しまとめる。 折れ線グラフの変わり方は、1目もりの大 きさやグラフのようすからよみとる。	○伴って変 わる2つの 数量の関 係を、折 れ線グ ラフから よみと ること が 可 能 な 。
5, 本時のめあての評価し学習の振り返りをする。	10	○練習問題(3問)を提示し本学習の習得を図る。～1問目:A問題(基礎・基 本の問題) ～2問目:少し難易度を上げたA問題 ～3問目はA'の問題(B 問題へのステップ問題。B問題に近づくためのステップ)を設定し「活用」 を意識した問題を提示し、探究の種をまいておく。 ○次時は「学習したことを確実に身につけていこう」と投げかけ予告とする。	○変化のよ うすを、折 れ線グ ラフか らよみ と ろ う と し て い る 。

- 1, 題材 計算のきまりについて考えよう
- 2, 目標 ・小数の場合でも、分配法則が成り立つことを理解する。
- 3, 指導計画 3時間扱いの3時
- 4, 本時の展開
 - (1) 本時のねらい 辺の長さが小数の面積の求め方を、1つの長方形と見ても2つに分けてみても答えが等しいことに着目することからとらえ、小数の場合でも分配法則が成り立つことを理解することができる。

(2) 展開

学習活動	時	指導上の留意点	評価規準
1, 前時の学習を振り返る。	5	○フラッシュカードで、基礎・基本の計算問題を練習させる。	
2, 本時の学習のめあてを確認する。	5	○めあて 小数でも使える計算のきまりはもうないか考えることができるようになるろう を明示し、本時の学習のめあてを確認し本時の問題を提示する。	
3, $\square \times (\bigcirc + \triangle)$ はどのような考え方で面積を求めているのかを考える。	15	○次の面積は、辺の長さが小数でもあっても計算のきまり $\square \times (\bigcirc + \triangle) = \square \times \bigcirc + \square \times \triangle$ を使えば、かんたんに求めることができます。そのわけを下の図を使って説明しましょう。 ・問われているのは、既に学習してきている分配法則が、小数の場合でも成り立つのかということである。子どものつぶやきを待ち、問題のイメージを膨らませ十分につかめたところで中心の活動に入っていく。 ○本時のめあてを達成するための解決への視点は、 $\square \times (\bigcirc + \triangle)$ の考え方が $\square \times (\bigcirc + \triangle)$ が分かれば、計算のきまりが使えることを説明できるのではないか と問い算数的活動に入っていく。 ・自分の考えをノートに図や絵、式で表現するなど個人思考の場を設定する。	
4, 小数でも計算のきまりが使えるか話し合う。	10	○習得させたい本時のねらいは、 $\square \times \bigcirc + \square \times \triangle$ の2つの長方形とみる考え方と $\square \times (\bigcirc + \triangle)$ の1つの長方形とみる考え方は、答えが等しいことから、計算のきまりとして成り立つことを明らかにすることである。 ・机間指導によりノートの書き込みの様子を把握し、自分なりの考えが表現されている段階で集団思考に切り替える。	○具体的な操作を通して、小数の場合の分配法則を考えている。
5, 本時のめあての評価し学習の振り返りをする。	10	○子どもの考えを板書させ、それぞれの考えの過程や理由を明らかにさせる。 ・分配法則を使用すれば計算が簡単にできることを確認することにより、そのしくみを理解し活用できるようにしていきたい。 ○本時のめあてを思い起こし、めあてが達成されたかを確認しまとめる。 $\square \times (\bigcirc + \triangle) = \square \times \bigcirc + \square \times \triangle$ は まとめ 小数でも使える。	○整数のときと同じように、小数のときも分配法則が成り立つことを理解している。
		○練習問題(3問)を提示し本学習の習得を図る。～1問目:A問題(基礎・基本の問題) ～2問目:少し難易度を上げたA問題 ～3問目はA'の問題(B問題へのステップ問題。B問題に近づくためのステップ)を設定し「活用」を意識した問題を提示し、探究の種をまいておく。 ○次時は「新しい単元小数のわり算を学習していこう」と投げかけ予告とする。	

- 1, 題材 図を使って考えよう
- 2, 目標 ・数量の関係を線分図や式に表すことができる。
- 3, 指導計画 1時間扱いの1時
- 4, 本時の展開

(1) 本時のねらい 問題場面を表した線分図のあり方を、基準の「1」で表されている数量や求めたい数量□と対応している数量に着目することからとらえ、数量の関係を線分図や式に表すことができる。

(2) 展開

学習活動	時	指導上の留意点	評価規準
1, 前時の学習を振り返る。	5	○フラッシュカードで、基礎・基本の計算問題を練習させる。	
2, 本時の学習のめあてを確認する。	5	○めあて 図を使って考えることができるようになるろう を明示し、本時の学習のめあてを確認し本時の問題を提示する。 <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 5px 0;">問題①②③を表している図を、(あ) (い) (う) (え)の中から選びたいと思います。正しい図を選ぶために着目するポイントはどこか説明しましょう。また、問題の答えも求めましょう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・問われているのは、問題場面の数量関係を適切に表すためには、線分図はどのようにあればいいのかという点である。 ・子どものつぶやきを待ち、問題のイメージを膨らませ十分につかめたところで本時の中心である活動に入っていく。 	
3, 問題文や線分図のちがいはどこにあるのかを考える。	15	○本時のめあてを達成するための解決への視点は、問題場面の違いや線分図における数量関係の違いを見つけることにあるので、 ちがいを明らかにすれば、図を選ぶポイントが分かるのではないか と問い算数的活動に入っていく。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをノートに図や絵、式で表現するなど個人思考の場を設定する。 ○習得させたい本時のねらいは、問題場面を適切に表わした図は、基準の「1」として表されるのがどのような数量なのか、求めたい数量□と対応する数量が何を表しているのかを明らかにすることにある。 <ul style="list-style-type: none"> ・机間指導によりノートの書き込みの様子を把握し、自分なりの考えが表現されている段階で集団思考に切り替える。 	
4, 問題文に合う線分図を選ぶポイントは何かを話し合う。	10	○子どもの考えを板書させ、それぞれの考えの過程や理由を明らかにさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・図をもとに考えるよさやその楽しさを話題にすることにより、今後問題を解決していく際に図を積極的に活用していこうとする意識づけをしたい。 ○本時のめあてを思い起こし、めあてが達成されたかを確認しまとめる。 問題を表す図は まとめ もとにする量や求めたい量□がポイント	○数量の関係を図に表したり、図をもとにして式を考えたりすることができる。
5, 本時のめあての評価し学習の振り返りをする。	10	○練習問題(3問)を提示し本学習の習得を図る。～1問目:A問題(基礎・基本の問題) ～2問目:少し難易度を上げたA問題 ～3問目はA'の問題(B問題へのステップ問題。B問題に近づくためのステップ)を設定し「活用」を意識した問題を提示し、探究の種をまいておく。 ○次時は「新しい単元小数のわり算を学習していこう」と投げかけ予告とする。	

- 1、題材 変わり方を調べよう
- 2、目標 ・ともなって変わる2つの数量の変化のようすについて考える。
- 3、指導計画 4時間扱いの1時
- 4、本時の展開

(1) 本時のねらい 身の回りにある変わり方のようすを、1つの数量が変わるにつれて他方の数量がどのように変わるのかを調べることからとらえ、ともなって変わる2つの数量の変化について考えることができる。

(2) 展開

学習活動	時	指導上の留意点	評価規準
1, 前時の学習を振り返る。	5	○フラッシュカードで、基礎・基本の計算問題を練習させる。	
2, 本時の学習のめあてを確認する。	5	○めあて 変わり方を調べることができるようになろう を明示し、本時の学習のめあてを確認し本時の問題を提示する。 <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 5px 0;">はるなさんは変わり方調べに10枚のカードを用意しました。けんたさんは「このカードは2つに仲間わけできるよ」「変わり方に決まりがあるね」とつぶやきました。けんたさんがそう考えたわけを説明しましょう。</div> ・問われているのは、仲間わけの在り方とその変わり方の決まりはどのようなものであるかである。子どものつぶやきを待ち、問題のイメージを膨らませ十分につかめたところで、本時の中心である活動に入っていく。	
3, 2つの数量が変わっていく様子からわけを考える。	15	○本時のめあてを達成するための解決への視点は、着目した2つの数量が変化していくことをとらえることにあるので、 2つが変わっていくようすを調べれば、変わり方が分かるのではないか と問い算数的活動に入っていく。 ・自分の考えをノートに図や絵、式で表現するなど個人思考の場を設定する。	○身の回りから、ともなって変わる2つの数量関係のものを探そうとしている。
4, 変わり方はどのようにあるのかを話し合う。	10	○子どもの考えを板書させ、それぞれの考えの過程や理由を明らかにさせる。 ・変わり方には規則性があることを話題にするが、本時は単元の導入であるので深入りせずに興味や関心が高まるような意識づけをしたい。 ○本時のめあてを思い起こし、めあてが達成されたかを確認しまとめる。 身の回りには、2つの数量がともなって変わるものいろいろある。	○一方の量が変わるにつれて、他方の量がどのように変わるか考えている。
5, 本時のめあての評価し学習の振り返りをする。	10	○練習問題(3問)を提示し本学習の習得を図る。～1問目:A問題(基礎・基本の問題) ～2問目:少し難易度を上げたA問題 ～3問目はA'の問題(B問題へのステップ問題。B問題に近づくためのステップ)を設定し「活用」を意識した問題を提示し、探究の種をまいておく。 ○次時は「変わり方をくわしく学習していこう」と投げかけ予告とする。	

- 1, 題材 100より大きい数をあらわそう
- 2, 目標
 - ・100より大きい数について、10や100のまとまりをつくりながら数えることによって、十進位取り記数法のしくみについて基づく数え方がわかる。
- 3, 指導計画 9時間扱いの1時
- 4, 本時の展開
 - (1) 本時のねらい 100より大きい数の数え方を、10や100のまとまりをつくりながら数える活動を通してとらえ、十進位取り記数法のしくみにもとづく考え方を理解することができる。

(2) 展開

学習活動	時	指導上の留意点	評価規準
1, 前時の学習を振り返る。	5	○フラッシュカードで、基礎・基本の計算問題を練習させる。 ○1問テストで、前時の学習内容が身に付いているかをチェックする。	
2, 本時の学習のめあてを確認する。	5	○めあて 大きいかずをあらわすことができるようになろう を明示し、本時の学習のめあてを確認し本時の問題を提示する。 車のかずはどちらが多いかくらべたいとおもいます。どのようなかぞえ方をすれば、よいでしょう。 ・問われているのは、車の台数の比較を通して、大きい数の数え方はどのようにあればよいのかということである。子どものつぶやきを待ち、問題のイメージを膨らませ十分につかめたところで中心の活動に入っていく。	
3, 車の台数を数え、どちらが多いかを比べる。	15	○本時のめあてを達成するための解決への視点は、車をまとまりにしていく考え方に着目することにあるので、 まとまりをつくってかぞえれば、どちらが多いかくらべることができるのではないかと問い算数的活動に入っていく。 ・自分の考えをノートに図や絵、式で表現するなど個人思考の場を設定する。 ○習得させたい本時のねらいは、10ずつのまとまりに着目して落ちなく重なりなく数え、それをさらに10ずつのまとまりにして数えていくことである。 ・机間指導によりノートの書き込みの様子を把握し、自分なりの考えが表現されている段階で集団思考に切り替える。	
4, 車の台数はどのように比べればよいのか話し合う。	10	○子どもの考えを板書させ、それぞれの考えの過程や理由を明らかにさせる。 ・本時は2時間扱いの1時であるので、たくさんの車の数を正確に数える意欲を高め、10のまとまり10個で100のまとまりができることまでを学んでいくものとする。位取り表で百の位を確認する学習は次時とする。 ○本時のめあてを思い起こし、めあてが達成されたかを確認しまとめる。 大きな数は、10のまとまり・100のまとまりをつくれればかぞえられる。	○100より大きい数を、くふうしながら、意欲的に数えようとしている。 ○100より大きい数について、10や100のまとまりをつくりながら数えることができる。
5, 本時のめあての評価し学習の振り返りをする。	10	○練習問題(3問)を提示し本学習の習得を図る。～1問目:A問題(基礎・基本の問題) ～2問目:少し難易度を上げたA問題 ～3問目はA'の問題(B問題へのステップ問題。B問題に近づくためのステップ)を設定し「活用」を意識した問題を提示し、探究の種をまいておく。 ○次時は「大きい数のまとまりをくわしくみてみよう」と投げかけ予告とする。	

- 1, 題材 およその体積を考えよう
- 2, 目標 ・不定形のもの体積を、既習の立体とみなして求めることができる。
- 3, 指導計画 1時間扱いの1時
- 4, 本時の展開
 - (1) 本時のねらい 不定形のもの体積の求め方を、既習の直方体や円柱とみなして考えることにより、およその体積を求めることができる。

(2) 展開

学習活動	時	指導上の留意点	評価規準
1, 前時の学習を振り返る。	5	<ul style="list-style-type: none"> ○フラッシュカードで、基礎・基本の計算問題を練習させる。 ○1問テストで、前時の学習内容が身に付いているかをチェックする。 	
2, 本時の学習のめあてを確認する。	5	<ul style="list-style-type: none"> ○めあて いろいろな立体の体積を求めることができるようになるう <p>を明示し、本時の学習のめあてを確認し本時の問題を提示する。</p>	
3, ロールケーキの体積をどのように求めればよいのか考える。	15	<p>ゆみ子さんは、次のロールケーキの体積を求めようとしています。あなたは、ゆみ子さんにどのような求め方をすすめますか。わけも説明しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問われているのは、問題場面のような不定形のもの立体はどのように体積を求めればよいのか、その体積を求める考え方である。 ・子どものつぶやきを待ち、問題のイメージを膨らませ十分につかめたところで本時の中心である活動に入っていく。 <ul style="list-style-type: none"> ○本時のめあてを達成するための解決への視点は、ロールケーキの概形を既習の立体ととらえることにあるので、 今までに習った図形にみなせば、おすすめの求め方が分かるのではないか <p>と問い目的意識や相手意識を高めて本時の中心となる算数的活動に入る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをノートに図や絵、式で表現させる等個人思考の場を設定する。 <ul style="list-style-type: none"> ○習得させたい本時のねらいは、「不定形のもの概形を既習の立体と見なして求積すればよい」ことに気づき、求積できることである。 ・机間指導によりノートの書き込みの様子から、自分なりの考えが表現されている段階で集団思考に切り替える。 	
4, お勧めしたいおよその体積の求め方を話し合う。	10	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもの考えを板書させ、それぞれの考えの過程や理由を明らかにさせる。 ○ここで問われているのは友に勧める考え方である点を確認し集団思考の場の充実を図ることにより、よりよい求積の考え方を話題にしていきたい。 ○本時のめあてを思い起こし、めあてが達成されたかを確認しまとめる。 <p style="text-align: center;">まとめ およその体積は、習った図形とみなせば求めることができる。</p>	○不定形のもの体積を、既習の図形に見なして考えている。
5, 本時のめあての評価し学習の振り返りをする。	10	<ul style="list-style-type: none"> ○練習問題(3問)を提示し本学習の習得を図る。～1問目:A問題(基礎・基本の問題) ～2問目:少し難易度を上げたA問題 ～3問目はA'の問題(B問題へのステップ問題。B問題に近づくためのステップ)を設定し「活用」を意識した問題を提示し、探究の種をまいておく。 ○次時は「立体の体積のまとめをしよう」と投げかけ予告とする。 	

- 1, 題材 円の面積の求め方を考えよう
- 2, 目標
 - ・方眼を用いたり, 等分したりして, 円の面積の求め方を調べることができる。
 - ・円の面積を, 計算で求めることができる。
- 3, 指導計画 5時間扱いの2時
- 4, 本時の展開
 - (1) 本時のねらい 円の面積を求めるための工夫を, 答えのおよその見当をもとに方眼の数や既習図形の求積公式に着目することからとらえ, 円の面積の求め方を理解することができる。

(2) 展開

学習活動	時	指導上の留意点	評価規準
1, 前時の学習を振り返る。	5	○フラッシュカードで, 基礎・基本の計算問題を練習させる。 ○1問テストで, 前時の学習内容が身に付いているかをチェックする。	
2, 本時の学習のめあてを確認する。	5	○めあて 円の面積を求めることができるようになるう を明示し, 本時の学習のめあてを確認し本時の問題を提示する。 はるなさんは下の図を見て, 「半径 10 cm の円の面積は, 400 cm²より小さく 200 cm²より大きい」と見当をつけました。はるなさんの考えは正しいかどうか, 面積を求めて確かめてみましょう。 ・問われているのは, 円の面積の答えの見当を受け, 結果の見通しを立て解決に向け面積を求める方法を考えるということである。 ・子どものつぶやきを待ち, 考えを出し合う場を設定することで解決へのイメージを十分につかませたうえで, 中心の活動に入っていく。	
3, 円の面積を答えの見通しをもち, 習ったことを使って工夫して求める。	15	○本時のめあてを達成するための解決への視点は, 既習図形の求積公式の何をどのように使うかにあるので, 今まで習った図形に変形すれば, 円の面積を求められるのではないか と問い算数的活動に入っていく。 ○習得させたい本時のねらいは, 既習経験を生かして円の面積を求めることにある。方眼の目の数を数える方法や既習図形の求積公式を用いて考える方法により, 近似値を求める工夫ができることにある。 ・机間指導によりノート書き込みの様子から, 自分なりの考えが表現されている段階で集団思考に切り替える。	○円の面積を調べる活動に関心を持っている。
4, 円の面積の求め方を出し合い話し合う。	10	○子どもの考えを板書させ, それぞれの考えの過程や理由を明らかにさせる。 ・等分してつくるおうぎ形の数多くしていけば, 底辺の円周部分が直線に近くなることについて出てこない場合は, こちらから話題にする。 ○本時のめあてを思い起こし, めあてが達成されたか確認しまとめる。 まとめ 円のおよその面積は, 方眼・正方形・三角形などを使えば求められる。	○円の面積について, 方眼の目の数を数えたり, 分割した三角形で求めたりする方法などを考えている。
5, 本時のめあての評価をする。	10	○練習問題 (3問) を提示し本学習の習得を図る。～1問目: A問題(基礎・基本の問題) ～2問目: 少し難易度を上げたA問題 ～3問目はA'の問題 (B問題へのステップ問題。B問題に近づくためのステップ) を設定し「活用」を意識した問題を提示し, 探究の種をまいておく。 ○次時は「円の面積をもっと正しく求めよう」と投げかけ予告とする。	

